

ブランディング推進室



「生きる、を支える科学技術」が生まれるまで 新たな防災科研の「アイデンティティ」

防災科研は、タグライン／ステートメント／ロゴマークから成る、新たな「アイデンティティ」を2019年2月22日に発表しました。ここでは発表に至るまでの経緯に関して簡単にご紹介いたします。

21世紀前半に予想される国難災害、その国家的な危機を乗り越えるために、日本の防災はどうあるべきか、防災科研はどのような役割を担うべきか。その答えを模索し実現すべく、防災科研はブランディング活動を行ってまいりました。

まず2018年1月に、職員から希望者を募り、林春男理事長を長とするブランディング推進室を所内で立ち上げました。また、社会から防災科研はどのように見られているのか、何を期待されているのか、を把握すべく、様々な外部の方々からのご意見を伺うソーシャルリスニングを行いました。そして、ブランディング推進室内でワークショップや会議などを10回以上重ね、さらに全職員を対象にしたワーク

ショップやアイデンティティに関する所内投票など全所一体となった議論も行うことで防災科研の存在価値を一から議論しました。これらの活動を通して、積極的に意見を出し合いお互いの考えを共有し職員一人ひとりが共通の価値観を見出していき、その象徴としてタグライン／ステートメント／ロゴマークから成る「防災科研のアイデンティティ」を策定しました。

この新たなアイデンティティは、2019年2月22日の平成30年度成果発表会において林理事長が発表いたしました。「生きる、を支える科学技術／SCIENCE FOR RESILIENCE」によって災害を力強くしなやかに乗り越えていく。この大きな挑戦への決意を込めたアイデンティティを掲げ、防

災科研は新たなステージへと進んでまいります。



ブランディング推進室会議（上）および全所ワークショップ（下）における議論の様子

Identity of NIED

生きる、を支える科学技術

SCIENCE FOR RESILIENCE

地震、津波、噴火、暴風、豪雨、豪雪、洪水、地すべり。
自然の脅威はなくなる。

でも、災害はなくすことができると、
私たち防災科研は信じています。
この国を未来へ、持続可能な社会へと導くために。
防災科学技術を発展させることで
私たちは人々の命と暮らしを支えています。

さあ、一秒でも早い予測を。一分でも早い避難を。
一日でも早い回復を。



防災科研